

川崎・溝の口の開発現場に子どもたちのアートが登場  
～株式会社末長組、地域共創型「仮囲いアートプロジェクト」を実施～

株式会社末長組（本社：神奈川県川崎市、代表取締役：工藤 尚樹）は、川崎市高津区にて進行中の「（仮称）溝の口南口計画」において、洗足学園小学校と連携した地域共創型の「仮囲いアートプロジェクト」を実施いたしました。

本プロジェクトの完成に伴い、2026年5月11日（月）に現地にて完成式を開催いたします。

### ■プロジェクト概要

本プロジェクトは、工事現場の仮囲いを活用し、洗足学園小学校の子供たちが「未来の溝の口」をテーマに制作したアート作品を展示する取り組みです。

工事期間中の仮囲いを単なる防護壁ではなく、「地域と未来をつなぐメッセージボード」として位置づけ、地域との共感形成およびまちの魅力向上を目的としています。

子どもたちの自由な発想による作品は、通行する方々に新たな視点や楽しさを提供するとともに、地域の未来を共有する象徴的な空間を創出しています。

### ■取り組みの背景

都市開発においては、建物の供給にとどまらず、地域社会との関係性や共感の創出が重要になっています。

特に工事期間中の仮囲いは、地域に閉鎖的な印象を与える一方で、新たな価値を生み出す余地を持つ空間でもあります。

株式会社末長組では、こうした空間を活用し、地域の皆さまとともにまちづくりを進める取り組みとして、本プロジェクトを企画・実施いたしました。

### ■プロジェクトの特徴

#### ① 子どもたちが描く「未来の溝の口」

洗足学園小学校の子供たちが主体となり、地域の未来を自由に表現。

教育的価値と地域愛の醸成を両立しています。

#### ② デジタルアートによる新しい表現手法

本プロジェクトでは、子供たちがタブレット等を活用したデジタルアートにより作品を制作。

アナログに限らない現代的な表現手法を取り入れることで、子どもたちの創造力をより自由に引き出すとともに、教育とテクノロジーの融合による新たな学びの形を実現しています。

#### ③ 仮囲いの価値転換

工事現場の仮囲いを、地域に開かれたコミュニケーションの場へと転換。

まちの景観向上と心理的なポジティブ効果を生み出します。

#### ④ 地域連携による新たな開発モデル

教育機関・地域・民間企業が連携することで、持続可能なまちづくりのモデルケースを創出しています。

## ■完成式概要

日時：2026年5月11日（月） 11時00分

場所：（仮称）溝の口南口計画 現地（神奈川県川崎市高津区久本一丁目）

出席予定者：

川崎市高津区役所 区長 白井 豊一 様

洗足学園小学校 校長 田中 友樹 様

株式会社丸貞 代表取締役 持田 裕司 様

株式会社末長組 代表取締役 工藤 尚樹

洗足学園公認アイドル MARUKADO

※当日は地域メディアによる取材も予定されています。

## ■今後の展望

株式会社末長組では、今後も地域と共に歩む開発を推進し、「まちの価値を高める開発」をテーマに、地域社会との共創による新たな取り組みを展開してまいります。

## ■プロジェクト体制

事業主：株式会社末長組

協力：洗足学園小学校

後援：川崎市高津区役所

プロデュース：株式会社丸貞

## ■会社概要

会社名：株式会社末長組

所在地：神奈川県川崎市高津区梶ヶ谷 3-13-31

代表者：代表取締役 工藤 尚樹

事業内容：総合建設業・不動産開発 等

## ■お問い合わせ先

株式会社丸貞

担当：持田

TEL：044-811-8877

MAIL：mochida-h@marutei.jp